資料２

「高血圧ゼロのまち」モデルタウン事業「オール北九州で健康寿命を延伸する」-わっしょい百万腕まくり-

地域課題（問題点）

高血圧症が重症化を招く

脳血管疾患、虚血性心疾患の治療者 **約８割**が高血圧症を保有（H30年度KDB）

拡大する生活習慣病の医療費

北九州市の国民健康保険加入者1人当たりの医療費は、政令市中 **第２位**である。
生活習慣病に関する医療費は
全体の　５３％ 約380億円
（H30年度KDB）

加入保険による健康格差 健康無関心層の増大

加入保険別（健保組合、協会けんぽ、国保）では、**国保加入者の健診受診率が ワーストの 36.6%**
（H30北九州市特定健診）
世代や職場、加入保険等の違いによって健康格差が生じており、健康関心層と無関心層の二極化が増大している。
（H27北九州市健康づくり実態調査）

- ◆集中的な高血圧対策
- ◆特定健診未受診者へのアプローチ
- ◆ハイリスク者の発見
- ◆ハイリスク者支援モデルの構築

課題解決に向けた取組み

ターゲット

北九州市民
- **血圧未測定者**
  - **特定健診未受診者**
    - **個人事業主・従業員**（モデル実施先選定）
    - **無職の高齢者・主婦**（モデル実施先選定）

主要評価指標

- 特定健診受診率及び特定健診保健指導実施率の向上
- 特定健診受診者Ⅲ度高血圧の者の割合の減少
- 脳血管疾患、虚血性心疾患の入院医療費の減少
- 特定保健指導を受けた者の血圧の改善
- アプリ使用者の血圧・塩分チェック点数の改善
- 喫煙率の低下
- きたきゅう健康づくり応援店の増加

副次評価指標

- 特定健診未受診者で受診勧奨した者の数・血圧測定者数・健診受診率の向上
- アプリ登録者数の増加
- アプリ利用者の平均歩数の増加

個別的な取り組み（モデル実施）

Ⅰ.商店街等の個人事業主・従業員へのアプローチ
⇒職場や加入保険等の違いによる健康格差の解消

Ⅱ.校(地)区へのアプローチ
⇒地域の健康課題として、高血圧や高血圧性疾患の割合が高い傾向にある校（地）区を選定し、支援モデルの構築を図る

市全体での取り組み

①スマホアプリを活用した血圧・体重・歩数管理・塩分チェック
②特定健診関連保健事業
③健康料理・減塩ﾚｼﾋﾟ普及
④受動喫煙対策・禁煙支援
⑤きたきゅう健康づくり応援店の登録・利用促進
⑥アプリでのアンケートで取得したデータの分析・評価

アプリを活用した血圧測定　イメージ

※　スマホ非所有者は既存の健康手帳や塩分チェックシートを活用

事業実施・効果検証

1. モデル地区の選定
2. 血圧測定場所・期間の設定
3. 血圧測定場所へのボランティア配置
4. 商店街組合やまちづくり協議会と連携した呼びかけ
5. アプリを活用した血圧測定及び塩分チェック　※
6. アプリを通じたハイリスク者へのアラート・受診勧奨
7. ハイリスク者・未受診者の健診受診
8. 健診結果に応じた栄養・運動・禁煙指導
9. ハイリスク者本人による体重・血圧・塩分・歩数管理
10. アプリで把握したデータの分析

良塩（よしお）くん
©2017日本高血圧学会